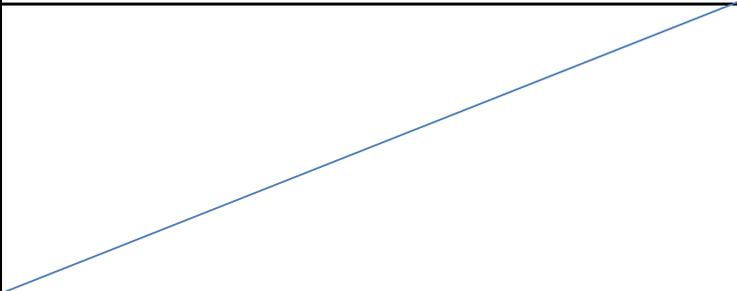


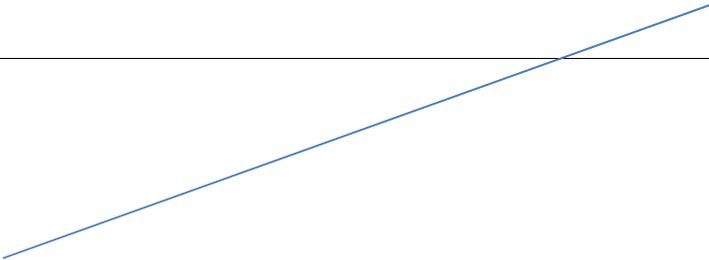
評価委員からの質問項目について

病院名等 木曽病院

| 対象の病院 | 質問項目 | 回答 |
|--------|---|---|
| 本部・全病院 | <p>地方独立行政法人化について</p> <p>(1)独法化の活用にあたって、最も取り組んだ課題は何か。また、その成果と問題点は。</p> <p>(2)独法化後の看護師確保の取組と成果は。</p> <p>(3)今後、看護師確保について、新規戦略で考えていることがあるか。</p> | <p>・運営が県から独立行政法人化され不採算医療からの撤退の不安を取り除くこと。</p> <p>・人材の確保・育成により病院の運営体制を強化すること。</p> <p>【成果と問題点】</p> <p>・医師については、信大からの派遣、自治医科大出身医師の配置などにより、おおむね確保され、24時間救急患者の受入れ態勢を維持するとともに標準医療を確保している。</p> <p>また、</p> <p>・リハビリに関しては、急性期から回復期、更には在宅における十分なリハビリ提供を目指し、理学療法士、作業療法士等の確保や土曜日出勤による切れ目のないリハビリ等に取り組んでいる。24年度は実施リハ単位数は前年度比3,175単位の増加、訪問リハで実施件数が前年度比150件の増加となり、患者へのリハビリの提供の充実が図られた。</p> <p>・病院機能評価の取得、認定看護師等の養成、14年間連続黒字(1億1636万円)の達成などにより地域の信頼を得ている。</p> <p>・木曽地域は医療人材が乏しいことから、産休代替など適時に必要な人材が確保できないこと。また、少ない人員で24時間の救急医療を維持していることから、職員の疲弊・モチベーションの維持が課題となっている。</p> <p>・修学資金貸与制度の活用、看護大学や県内外の専門学校等27校への訪問活動、県外の就職ガイダンスへの参加、先輩卒業生の学校訪問、病院紹介や実習生の受け入れ等に取り組んでいる。しかしながら、産・育休取得職員、育児短時間勤務職員など夜勤ができない職員もおり、平成23年4月から入院病棟を1病棟閉鎖し、4病棟で運用している。</p> <p>【成果と問題点】</p> <p>・現在、修学資金は19名に貸与しており、今年度は8名採用のうち4名が貸与者である。</p> <p>・木曽看護専門学校に加え、中京学院大学の実習生延べ21名を受け入れたことから新たな就職に繋がることを期待している。また、信州木曽看護専門学校の開校により、地元出身者の採用が増えることを期待している。</p> <p>信州木曽看護専門学校の卒業生が誕生するまでは、現在の取組をこまめに実施したい。</p> |

| | | |
|---------------|---|--|
| <p>本部・全病院</p> | <p>収支結果について</p> <p>(1) 自院の収支結果をどのように思っているか。特に、県からの繰入金相当額がなかった場合の収支結果について、どのように思っているか。</p> <p>(2) 自院のレゾナートル(存在意義)を県民の方々にどのように説明されるか。</p> <p>(3) 上の2つの問いに対する回答について、両者の間の整合性をどのように思われるか。</p> | <p>・人口の減少、高齢化が進行する中、診療報酬改定に伴う影響の分析、施設基準の総点検を行い「脳血管疾患リハビリテーション料Ⅰ」、「データ提出加算Ⅰ」等の届出を行うとともに経費の節減に努めたことや、DPC係数が前年度より0.0783増加した等もあり14年間連続の黒字経営を維持することができた。</p> <p>・二次医療圏唯一の病院として標準的な医療サービスを提供するため、へき地医療拠点病院として小児医療や救急医療の実施、災害拠点病院としての機能維持などについて県より運営費負担金が繰り入れられており、負担金なしでは木曾地域の医療を確保することは難しい。</p> <p>・二次医療圏唯一の病院として、救急については24時間体制で、全診療科がオンコール体制をしている等急性期から慢性期まで幅広い診療活動を行っているとともに、「木曾病院運営協議会」や「木曾病院モニター会議」、住民が自主的に組織した「木曾病院・木曾地域の医療を守る会」等からの声を聞くなどして、地域住民が安心して暮らせる生活環境の確保に努めている。</p> <p>・木曾地域唯一の病院として、急性期から慢性期、リハビリテーション、訪問診療等に対応していくためには、社会環境の変化に伴う制度改正にも順応できる経営体質の強化を図らなければならない。</p> |
| <p>須坂病院</p> | <p>看護師等の確保について</p> <p>(1) 院内保育所「カンガルーのぼっけ」の現在までの成果と、今後の改善点は。</p> |  |

病院名等 木曽病院

| 対象の病院 | 質問項目 | 回答 |
|--------|---|--|
| 本部・全病院 | <p>看護師確保対策について</p> <p>(1)採用に向けて種々の試みを努力されているが、継続に向けての取組(離職率を下げる)について、どのような具体策(勤務時間、勤務形態、家事・育児との両立のための方策など)が講じられているか。</p> <p>(2)潜在的看護師が全国で50万人以上いると言われているが、再就職のための研修や労働環境整備の方策は講じられているか。</p> <p>(3)採用にあたって、給与体系、労働環境等、他と差別化してアピールする余地はないか。</p> | <p>・育児短時間勤務の実施、院内保育所の運営、夜勤免除の扱いなど勤務し易い形態等を個々の相談に応じている。また、新規採用職員には技術研修、フォローアップ研修等を実施して、学校と現場のギャップ解消や、メンタルヘルスの維持に努めている。</p> <p>・病院独自でも希望者には再就職研修ができる体制を整えている。また、看護協会の再就職支援研修へのあっせん等も行っている。</p> <p>・労働環境の整備としては院内保育所の設置、本人の希望に沿った勤務形態等にも対応する用意はあるが、ここ数年、問い合わせはない。</p> <p>・木曽病院の特徴である急性期から慢性期、リハビリテーション、訪問診療等幅広く地域医療に携われることや、同一施設内にある老人保健施設、療養型病棟との交流もあり、介護分野にも関わることなどをアピールするとともに、森林セラピーの体験等も取り入れながら勧誘を図る。</p> |
| 須坂病院 | <p>専門医療の提供について</p> <p>(1)地域医療・専門医療の提供に関し、種々努力をされているが、より専門化に向けて検討する余地はないか。</p> |  |